

# Spotlight

スポットライト



## 財田の太鼓台をかつぐ会

### 宵

闇迫る夏の洞爺で、法被姿の男たちを一目見よう。とまちの人々が外へと繰り出していました。洞爺夏まつりの夜、男たちの肩で揺れる巨大な山車「ちようさ」の名は洞爺壱番太鼓台。沿道に詰めかけた人々の前で停まる

と、前方の担ぎ手が丸太のよ

うな担ぎ棒を持ち上げ、後方の担ぎ手は肩に沈み込んでくる棒の痛みをこらえながら次の瞬間には持ち上げます。互いに歯を食いしばっては前後に激しく揺らし、太鼓台に縫いこまれた金の龍や銀糸の房が舞うさまは昼間の熱気が冷めやらない夏の夜道によく映えていました。

ちようさと呼ばれる太鼓台は西日本を中心とした夏の風物詩となっています。150

年以上前に始まったとされる香川県では県内各地で多彩な

ちようさが見られ、現在は三豊市に統合された友好都市・

財田町でも同様でした。

友好提携で結ばれた洞爺村を財田町入樋地区太鼓台の一

行が訪れた2001年、洞爺夏まつりでちようさが披露さ

れました。翌年には、同町が洞爺村へのちようさの寄贈を

打診。6月に来村した町の助役は寄贈の目的を語り、町村

合併で「財田町」の名前と、

伝統が消えることが危惧され

ていると訴えました。「姉妹

町村に歴史を残したい」、「民

間レベルの交流を長く続けて

いきたい」。ちようさには財

田町の郷土愛が込められてい

ました。

両町村は寄贈に合意し、03

年7月の洞爺夏まつりに合わ

せた初披露が決定。村民の前

を練り歩く洞爺壱番太鼓台の

豪壮な姿には、遠く離れた財田町から受け継がれた文化が

確かに息づいていました。

04年7月には、財田の太鼓

台をかつぐ会が発足。洞爺村

は洞爺湖町、財田町は三豊市

へ合併されても交流は続き、

現在は20歳の若手から87歳ま

での約70人が支えています。

堀家潔会長は「これだけの数

の人が盛り上げてくれていて

ことを一番見てほしいです」

と語ります。

洞爺夏まつりの終盤。台車

を外して担ぎ手の力だけで

ちようさを持ち上げ、祭りを

締めることが伝統となってい

ます。この時ばかりはかつぐ

会だけでなく、見物客もちよ

うさの下へ。大勢の腕に支え

られて、今年もちようさは伝

統を積み重ねました。

### 町公式LINEを友だち追加!

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます!

### 東奔西走

今号の表紙を飾ったのは虻田神社例大祭の子ども相撲。惜しくも土俵際を守れず悔しそうな顔を浮かべる力士もいましたが、全力勝負に大きな声援が送られていました。貴重な夏の思い出になったことと思います。(D.Y)  
そろそろ涼しくなるかと思いきや、まだ気温が高い日が続く中行われた北海道トライアスロン。今年も天候に恵まれ、きれいな洞爺湖や羊蹄山を見ることができました。選手の皆さんも終始笑顔で、大会を楽しまれた様子でした。(Y.A)

